

教育内容に関するアンケート調査 結果報告（短大）

令和6年3月11日
広島文化学園大学
教学支援センター

1 調査目的

在学中に身に着けさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人材像に照らして、卒業生が、本学の教育内容等についてどのように評価しているのか等の調査を行い、結果を本学の教育改革にフィードバックすることにより、更なる改善に資する。

2 調査期間

令和5年12月

3 調査対象

卒業生(令和3年3月卒業生)

4 調査方法

Google フォームによる回答（無名式）

5 回収率

大学教育内容アンケート調査の配布数と回収率

コミュニティ生活	食物栄養	保育	合計	宛名不明	回答数	(回答率)
72	42	84	198	19	22	12.3%

6 アンケート調査結果

A あなた自身について伺います

(1) 卒業時の所属学部・学科

- ① コミュニティ生活学科 8人
- ② 食物栄養学科 6人
- ③ 保育学科 8人

(2) 性別

- ①男性 0人
- ②女性 22人

B 本学の教育内容について伺います

(1) 本学での授業や活動を通して、どのような力が身につきましたかお尋ねします (複数回答可)

- 1-1 幅広い教養が身についた
- 1-2 専門的知識とその応用力が身についた
- 1-3 積極性・チャレンジ精神が身についた
- 1-4 豊かな人間性が育まれた
- 1-5 生涯にわたって学び続ける能力が身についた
- 1-6 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力が身についた
- 1-7 問題を発見し、解決する能力が身についた
- 1-8 コミュニケーション能力が身についた
- 1-9 プレゼンテーション能力が身についた

- 1-10 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力が身についた
- 1-11 実践に役立つ資格・検定が取得できた

(2) 本学は次のようなことを教育の特徴としていますが、これらが卒業後に役立っていますかお尋ねします (複数回答可)

- 2-1 専門的知識・技術の修得
- 2-2 対人援助力の養成
- 2-3 幅広い教養教育の実践
- 2-4 実習等に基づく実践的な教育
- 2-5 汎用的能力の養成
- 2-6 コミュニケーション能力の涵養
- 2-7 きめ細やかな指導体制
- 2-8 自由な校風
- 2-9 個性を伸ばす教育
- 2-10 実社会で通用する知識・技術の養成

C 就職・キャリア支援について伺います

(1) 在学中に学んだことや経験したことが、就職後に役立っていると思う事は何ですか (複数回答可)

- ①専門的知識及び技能
- ②各種免許状及び資格・検定取得等
- ③社会人としての基本的マナー
- ④コミュニケーション能力
- ⑤幅広い教養
- ⑥プレゼンテーション能力
- ⑦問題解決能力
- ⑧積極性・チャレンジ精神
- ⑨語学力(外国語含む)
- ⑩情報処理関係技術
- ⑪アクティブ・ラーニング
- ⑫読書
- ⑬ボランティア活動
- ⑭サークル活動
- ⑮アルバイト
- ⑯その他()

(2) 就職後、「在学中にもっと積極的に取り組んでおけばよかった」と思う事は何ですか (複数回答可)

- ①専門的知識及び技能の習得
- ②各種免許状及び資格・検定の取得
- ③社会人としての基本的マナーの習得
- ④コミュニケーション能力の習得
- ⑤幅広い教養の習得
- ⑥プレゼンテーション能力の修得
- ⑦問題解決能力の習得
- ⑧積極性・チャレンジ精神の習得
- ⑨語学力(外国語含む)の修得
- ⑩情報処理関係技術の修得
- ⑪アクティブ・ラーニングの習得

- ⑫読書
- ⑬ボランティア活動
- ⑭サークル活動
- ⑮アルバイト
- ⑯その他()

(3) 在学生に対し、自分の進路を決めるとき、在学中にやっておくとよいと思うことは何ですか (複数回答可)

- ①早期の進路に対する準備
- ②各種免許状及び資格・検定取得等
- ③職種・業界研究
- ④インターンシップの経験
- ⑤社会人としての基本的マナーの修得
- ⑥文章能力・読解力の向上
- ⑦語学力(英語等)の向上
- ⑧積極的な企業等へのアプローチ
- ⑨就職・キャリアセンターの活用
- ⑩その他()

7 調査結果

集計数 22 (男性：0 女性：22)

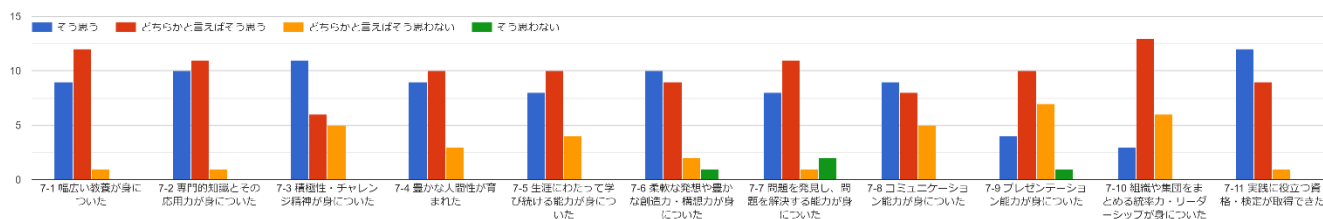
A

コミュニティ生活学科：8名 食物栄養学科：6名 保育学科：8名

B 本学の教育内容について伺います

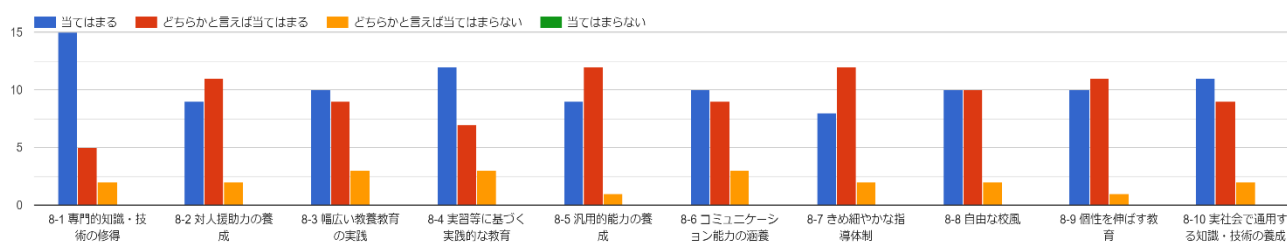
(1) 本学での授業や活動を通して、どのような力が身につきましたかお尋ねします

- 1-1 幅広い教養が身についた
- 1-2 専門的知識とその応用力が身についた
- 1-3 積極性・チャレンジ精神が身についた
- 1-4 豊かな人間性が育まれた
- 1-5 生涯にわたって学び続ける能力が身についた
- 1-6 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力が身についた
- 1-7 問題を発見し、解決する能力が身についた
- 1-8 コミュニケーション能力が身についた
- 1-9 プレゼンテーション能力が身についた
- 1-10 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力が身についた
- 1-11 実践に役立つ資格・検定が取得できた



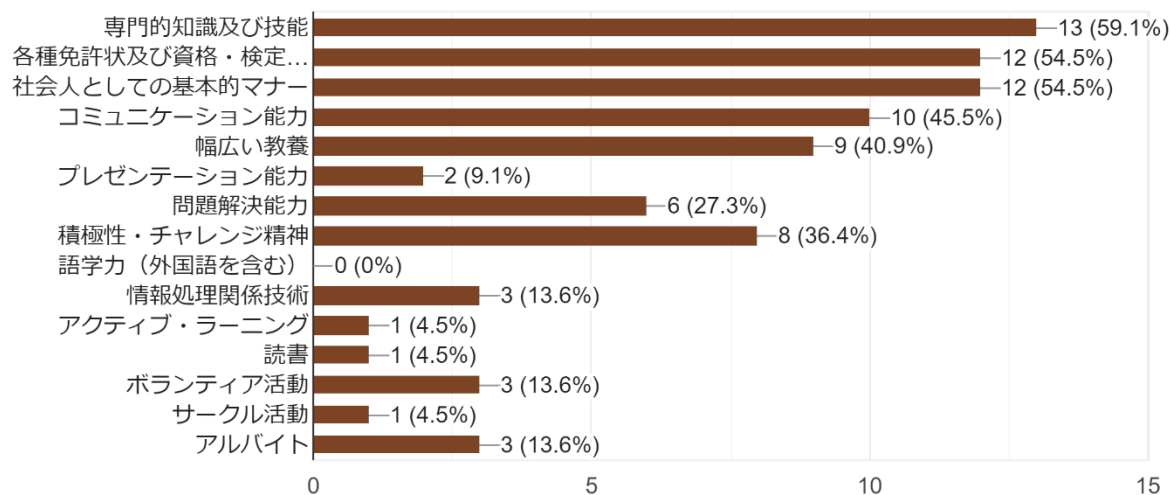
(2) 本学は次のようなことを教育の特徴としていますが、これらが卒業後に役立っていますかお尋ねします

- 2-1 専門的知識・技術の修得
- 2-2 対人援助力の養成
- 2-3 幅広い教養教育の実践
- 2-4 実習等に基づく実践的な教育
- 2-5 汎用的能力の養成
- 2-6 コミュニケーション能力の涵養
- 2-7 きめ細やかな指導体制
- 2-8 自由な校風
- 2-9 個性を伸ばす教育
- 2-10 実社会で通用する知識・技術の養成

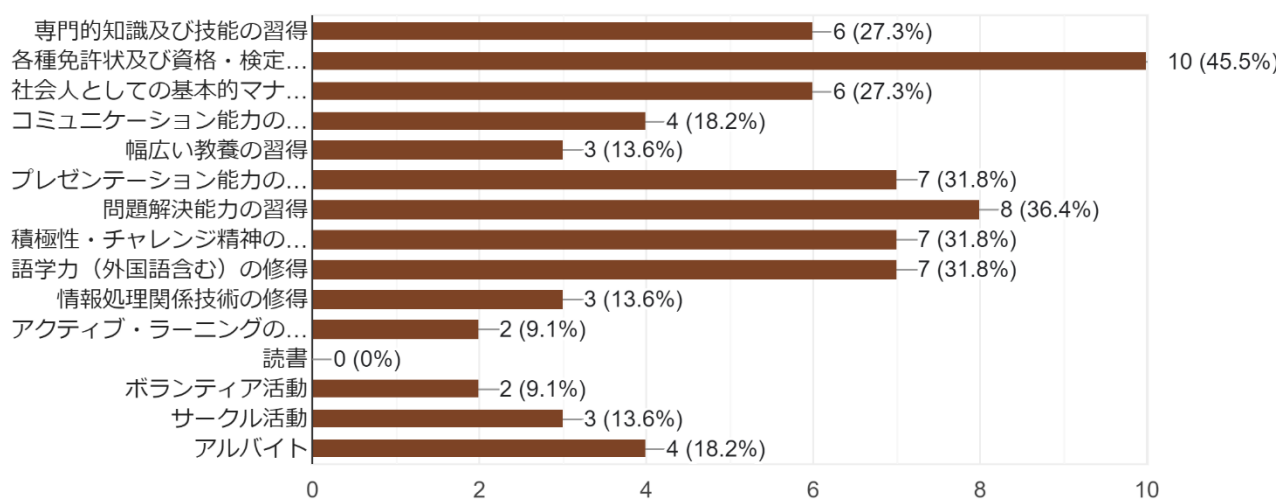


C 就職・キャリア支援について伺います

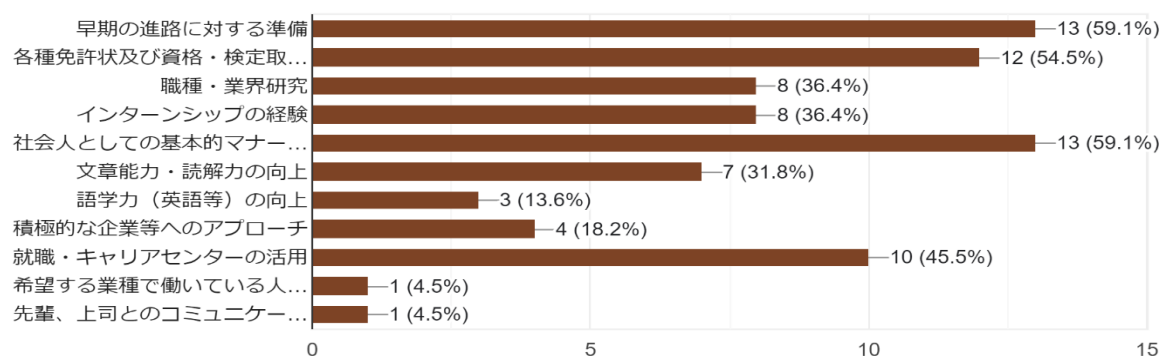
(1) 在学中に学んだことや経験したことが、就職後に役立っていると思う事は何ですか (複数回答可)



(2) 就職後、「在学中にもっと積極的に取り組んでおけばよかった」と思う事は何ですか
(複数回答可)



(3) 在学生に対し、自分の進路を決めるとき、在学中にやっておくとよいと思うことは何ですか
(複数回答可)



8 結果と分析

コミュニティ生活学科	専門的知識やその応用力、実践に役立つ資格・検定、コミュニケーション能力や積極性については、在学中の学びに満足している傾向だった。一方、プレゼンテーション能力や統率力・リーダーシップの力は弱いと感じている。専門的知識や技能、資格・検定の取得に加えて、2年間の授業の中に、プレゼンテーション能力やリーダーシップとして力は行事等を通して身につけているものもいるがそうではないものもいるので、そうした力を身につけていくような取り組みを検討していく必要がある。
食物栄養学科	卒業後、栄養士を中心とする食やその他の関連分野で活躍することを踏まえて、教養科目及び専門科目の授業内容を充実させる。また、学生生活を通して、学生自身が社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力、問題解決能力等を身に付けられるよう、学科全体で指導を行う。進路支援は、キャリアセンターと連携しながら、学生一人ひとりの希望を把握し、個別支援に取り組みたい。
保育学科	前年度の調査に比較し、改善されている項目が多くなっていることはよい傾向であると受け止めている。その中で、幼児や保護者など人と関わる仕事の特徴として、「言葉かけの仕方」や「言葉の使い方」など、状況に即した対応力の必要性を実感していることに留意したい。これらの結果を、指導に反映し、実践力のより高い学生の育成に努めたい。

9 短期大学全体のまとめ

アンケートの回収率は12.3%と低く、今回の調査結果からは、本学の教育内容等について大まかな傾向を把握する限定的な分析となるが、各学科の改善点を把握する上での貴重なデータとして、今後の教育課程編成等にフィードバックしていきたい。

以下、短期大学全体としての調査結果分析の概要をまとめる。

「本学での授業や活動を通して身に付いた力」については、「実践に役立つ資格・検定」、「積極性・チャレンジ精神」、「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」、「専門的知識とその応用力」が上位を占めている。専門力に加えて、人間力及びキャリア形成力に関連する汎用的な能力が身に付いていると卒業生が認識している比率が高く、本学の教育理念が2年間の教育活動を通して、ある程度達成されていると考えられる。

「本学の教育のうち卒業後役に立っているもの」については、「専門的知識・技術の修得」、「実習等に基づく実践的な教育」、「実社会で通用する知識・技術の養成」が、上位を占めており、専門性や実践的知識・技術の育成が卒業後に求められる事項となっている。

「在学中もっと積極的に取り組んでおけばよかったと思う事」という設問は、卒業生に学生生活の反省点を問う側面もあるが、「各種免許状及び資格・検定の取得」、「問題解決能力の習得」、「幅広い教養の習得」、「積極性・チャレンジ精神の習得」など、回答の上位を占めている事柄は、今後の各学科における学生指導において、より重視すべき事項を検討する上で参考となるものである。領域的には、幅広い教育内容が求められていると言える。

調査結果全体から、各学科のディプロマポリシーの達成度に関して言えば、各学科で主要な目的としている専門的知識・技能や資格・検定の修得について卒業生が身に付いたと認識している割合が高く、学修成果を一定程度以上達成していると言える。一方、情報教育、外国語教育に関する事項が「身に付いた力」や「役に立っているもの」として上位に上げている比率が低いことから、こうした教養教育に関わる領域の充実が今後の課題となる。